

◆「アレルギーの臨床」に寄せる◆

## 「アレルギーの臨床」に寄せる - 837 - 矢追インパクト療法による鬱病を 形から変える治療【矢追インパクト療法】

東京渋谷 山脇診療所

山脇 昂

**目的：**鬱病とは、抑うつ気分、興味と喜びの喪失、易疲労感が最も典型的な症状、集中力と注意力の減退、自己評価と自信の低下、罪悪感と無価値観、将来に対する希望のない悲観的な見方、自傷あるいは自殺の観念や行為、睡眠障害、食欲不振等が継続している状態で日常生活や仕事や社会的活動を続けていくのに困難な状態が長期間続く。

幾ら内服薬を服用しても、口の渴きと頭のぼんやり感、倦怠感・眠気等でなんの意欲も出なく、ただただ時間の経過による治療（時間治療）に身を任せておくしかない鬱病に、形（姿勢）から変える治療は、現在世界中誰も考えていないし、思いついてもいない。これを矢追インパクト療法で治療できる。一切の内服薬を必要としないが、服薬中断に不安があり、希望あれば、今迄の服用を継続しても良い。

**対象と方法：**現在そのまま減感作療法で使用可能なアレルゲンエキス数種を別々に水50%グリセリン50%の希釈液（鳥居）を用いて10億倍～1兆倍前後に希釈し、別々に数十個皮内注射をする。注射直前直後の表情・眼力（めじから）・血色の変化を写真に撮る・身長測定をやる。敏捷度・意欲・やる気度・睡眠障害の解消度等はなかなか客観的数値化測定できないが、注意して観察する。

**結果：**まだ症例数は少ないですが、少なくとも長期間の内服療法よりは、積極的で効果的です。直径4～5mm程度のクワデルを作りますから、副作用は蚊に刺された時の、短時間の痒み程度です。

**考察：**形を変えるのは整形外科の得意とする療法でしょう。しかし牽引しても、マッサージしても、電気をかけても姿勢は概ね変わらない。だから自分のやった治療法に対して、自信が持てない。直前直後の表情・血色の変化を写真に撮る・身長測定をやるなどは全く考えられていないのが現状です。この療法は筋肉中の脂肪酸を直接燃焼させ、体を温かくします。全身運動をしているのと同じ効果になります。基礎体温が0～1℃程度上昇します。それゆえ糖尿病に最もよく効きます。インシュリンを注射しても体は温かく感じません。糖を燃焼させても今以上に体は温かくなりません。カプサイシンや辛子やショウガ等香辛料も同じ作用をします。抗酸化作用です。これらは口腔粘膜や消化管粘膜から作用しますが、矢追インパクト療法は皮膚浅層（皮内）から沁みる様に広がり作用します。この現象は神経軸索反射に依ります。Antidromic Stimulation（逆走刺激）です。糖尿病患者にインシュリン療法と矢追インパクト療法を比較しても、勝るとも劣らないでしょう。

**結論：**世界中で自殺者が急増している鬱病治療に、はかばかしい効果の期待できない内服薬ではなく、うつむき姿勢を正し、猫背を矯正する、眼裂を大きくする、動きを敏捷にする等、形から変える療法を提案しました。

### 矢追インパクト療法による鬱病治療の1例

矢追インパクト療法は最も優れた抗酸化療法です。何かを治す治療法ではなく、元に戻すという治療法です。したがって何々科とか何々専門医とかにとらわれず色々な疾患に挑戦可能です。今回は鬱病に使用しました。

**症例：**55歳男性。5年以上前から鬱病となり、数多くの薬を服用している。引き籠もり、自殺企図あり、妻子には離婚で去られ、鬱病関係の身体障害年金で一人暮らし。お姉さんが看護師で、長野からヘバーデン結節の治療に

来ている。お姉さんがこの療法は鬱病にも効きますか？と問いますから、鬱病にも効きますよ、と答えたら連れて来た。無口でうつむき加減猫背でずんぐりし、まさに典型的鬱病の形です。1月に1～2回矢追インパクト療法を行い、半年程たった頃、とつとつと話し出した。

〈僕はこんな治療法効くとは思っていなかった。1浪して某大学商学部を卒業し、宅地建物取引業法の試験も受かって、新宿で長く不動産関係の仕事をしていた。そこで鬱病になった。墨田区から参宮橋の当診療所に来るのに、知人等に会うのが嫌で新宿を避けて、わざわざ迂回して来ていた〉と言う。だがそういう気持ちも消え、〈今日この治療を終えたら都庁に今迄放置し資格の失せていた宅建業法資格の回復手続きに行きます〉と言う。その約1ヶ月後に来院した時は、うつむき加減さがとれ、贅肉とれ、行動が敏捷になり、筋肉質になり13kg減ったと言う。不動産関係ではなく、近所の某運送会社に頼み込み、抗うつ薬を服薬していて自動車の運転はできないから、自転車で重い荷物を運搬する仕事を得た。力仕事でいっぱい汗をかき、一生懸命働

いたと言う。今迄やって来た不動産関係の仕事とは一切関係なく、何かやろうと言う意欲と、一面識もない所に頼み込みに行く勇気を誘い出した。その後来院はなくなり、お姉さんは〈良く働き、重宝がられている、1年後も忙しく働いている〉と言った。私は1個の服用薬も投与していない。

〈うつの傾向がある人の体を触ると、凝り固まっていることが多い

「体がかたいからネガティブになる」「ネガティブだから体がかたくなる」

「体に不調がある人は気持ちから変えよ。心に不調がある人は体から変えよ」

体をやわらかくすることにチャレンジ心の可動域というのは「器」とも言い換えられる。

心の可動域が広がり、心の柔軟性が高まると、ちょっとしたストレスも取るに足らないものになるだろう。心身の可動域が広がることは、人生の幅が広がることにもつながる〉（桜美林大学・山口創先生より）

このネガティブ状態を改善させる手段としても矢追インパクト療法は役立ちます。

〈話題あれこれ〉

## 第25回矢追インパクト療学会開催のお知らせ

平成29年4月22日(土)・23日(日) 矢追インパクト療学会・懇親会が開かれます。ご興味ある方はご参加ください。

場 所：学士会館 〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28 (神田・秋葉原・御茶ノ水)  
TEL：03-3292-5938 FAX：203-3292-088

日 時：平成29年4月22日(土) 午後6時より懇親会  
翌4月23日(日) 午前10時より矢追インパクト療学会 発表・会議

会 費：2万円

事務局：■■■■■■■■